

# 歯科矯正学

責任者名：本吉 満

学期：前期

対象学年：4年

授業形式等：講義

## ◆担当教員

本吉 満(歯科矯正学 教授)

中嶋 昭(歯科矯正学 准教授)

馬谷原 琴枝(歯科矯正学 准教授)

納村 泰弘(歯科矯正学 准教授)

内田 靖紀(歯科矯正学 専任講師)

稲葉 瑞樹(歯科矯正学 助教)

## ◆一般目標 (GIO)

不正咬合に対する診断、治療の必要性とその意義を理解するため、正常咬合、不正咬合の概念、矯正装置の特徴や処置の実際を修得する。

## ◆到達目標 (SBOs)

- ①矯正治療の目的と意義を説明できる。
- ②正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。
- ③不正咬合の原因、種類、障害、診察、検査、診断、治療及び予防法を説明できる。
- ④矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。
- ⑤矯正装置の種類と特徴及び使用目的を説明できる。
- ⑥矯正治療によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。
- ⑦矯正治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。

## ◆評価方法

平常試験 (50%) ならびに定期試験 (50%) の結果を基に評価する。

平常試験のフィードバックは、試験解説を行うことで学生へのフィードバックを行い、さらに質問がある場合にはオフィスアワーの活用にて個別学習指導を行う。

## ◆オフィス・アワー

| 担当教員   | 対応時間・場所など             | メールアドレス・連絡先                     | 備考 |
|--------|-----------------------|---------------------------------|----|
| 本吉 満   | 火曜日 18:00～19:00・講座研究室 | motoyoshi.mitsuru@nihon-u.ac.jp |    |
| 中嶋 昭   | 火曜日 18:00～19:00・講座研究室 | nakajima.akira@nihon-u.ac.jp    |    |
| 馬谷原 琴枝 | 火曜日 18:00～19:00・講座研究室 | mayahara.kotoe@nihon-u.ac.jp    |    |

|       |                       |                               |  |
|-------|-----------------------|-------------------------------|--|
| 納村 泰弘 | 火曜日 18:00～19:00・講座研究室 | namura.yasuhiro@nihon-u.ac.jp |  |
| 内田 靖紀 | 火曜日 18:00～19:00・講座研究室 | uchida.yasuki@nihon-u.ac.jp   |  |
| 稲葉 瑞樹 | 火曜日 18:00～19:00・講座研究室 | inaba.mizuki@nihon-u.ac.jp    |  |

#### ◆授業の方法

顎顔面口腔領域における成長発育，不正咬合の病態，原因や不正咬合の治療等を座学形式で理解習得する。10回ごとに平常試験を行い，授業の習得達成度を確認する。

【実務経験】本吉 満：現在，日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科を主管し行っている不正咬合の治療の実際について，治療概念やスキル，臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

中嶋 昭：現在，日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について，治療概念やスキル，臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

馬谷原琴枝：現在，日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について，治療概念やスキル，臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

納村泰弘：現在，日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について，治療概念やスキル，臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

内田靖紀：現在，日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について，治療概念やスキル，臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

稲葉瑞樹：現在，日本大学歯学部附属歯科病院歯科矯正科に所属し行っている不正咬合の治療の実際について，治療概念やスキル，臨床と教科書の現実的なギャップの実態等を経験をもとに教科書を補足しながら解説したいと考えています。

#### ◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

| 種別  | 図書名                 | 著者名                           | 出版社名  | 発行年  |
|-----|---------------------|-------------------------------|-------|------|
| 教科書 | 歯科矯正学 第6版           | 飯田順一郎，葛西一貴，後藤滋巳，末石研二，槇宏太郎，山城隆 | 医歯薬出版 | 2021 |
| 参考書 | 歯科国試パーフェクトマスター歯科矯正学 | 清水典佳，鈴木里奈                     | 医歯薬出版 | 2016 |

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|

## ◆DP・CP

[DP-3]

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

[DP-4]

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[DP-5]

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見い出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

[DP-8]

コンピテンス：省察力

コンピテンシー：プロフェッショナルとして生涯にわたり、振り返りを通じて基礎・臨床・社会歯科領域において自らを高めることができる。

[CP3]幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

[CP4]歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

[CP5]研究で明らかとなる新たな知見と研究マインドをもとに、歯科医学の課題に挑戦する学生を育成する。

[CP8]各学年における学修で得た歯科医学の知識、技術および省察力をもとに、歯科医師として生涯にわたり学習する姿勢を育成する。

## ◆準備学習(予習・復習)

必ず事前に教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。

## ◆準備学習時間

授業時間相当（45時間×2単位）になるよう、各回について予習（1時間）と復習（1時間）を行うこと。

## ◆全学年を通しての関連教科

矯正・小児歯科学演習（4年前期）

矯正・小児歯科学実習（4年後期）

## ◆予定表

| 回 | クラス | 月日  | 時間 | 学習項目  | 学修到達目標   | 担当   | コアカリキュラム           |
|---|-----|-----|----|---|--|------|--------------------|
| 1 |     | 4.6 | 6  | 【遠隔】<br>矯正治療の歩みと<br>定義、意義・目的<br>(教) pp.1-13 | 歯科矯正学に対する考え方の変遷と<br>定義を説明できる。<br>不正咬合の状態であるところのような<br>障害が生ずるか等矯正治療の重要性 | 本吉 満 | E-4-1) 不正咬<br>合の治療 |

|    |  |      |   |   |   |       |                |
|----|--|------|---|---|---|-------|----------------|
|    |  |      |   |   | を説明できる。   |       |                |
| 2  |  | 4.6  | 7 | 【遠隔】<br>咬合概論<br>(教) pp.66-77            | 咬合の定義と概念, 顎位と咬合, 顎運動を説明できる。   | 本吉 満  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 3  |  | 4.13 | 6 | 【遠隔】<br>正常咬合<br>(教) pp.77-85            | 正常咬合の概念, 種類, 保持されるための条件について説明できる。                                       | 本吉 満  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 4  |  | 4.13 | 7 | 【遠隔】<br>不正咬合<br>(教) pp.85-99            | 個々の歯の位置異常, 歯列弓形態の不正, 上下歯列弓関係の不正について説明できる。<br>アングルの不正咬合分類法と高橋の分類法を説明できる。 | 中嶋 昭  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 5  |  | 4.20 | 6 | 【遠隔】<br>不正咬合の先天性原因<br>(教) pp.100-109    | 不正咬合の先天性原因にはどのようなものがあり, それらがどのような不正咬合を引き起こすのか説明できる。                     | 中嶋 昭  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 6  |  | 4.20 | 7 | 【遠隔】<br>不正咬合の後天的原因と予防<br>(教) pp.109-121 | 不正咬合の後天的原因にはどのようなものがあり, それらがどのような不正咬合を引き起こすのか説明できる。                     | 本吉 満  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 7  |  | 4.27 | 6 | 【遠隔】<br>矯正歯科治療に伴う生体反応<br>(教) pp.122-134 | 矯正治療によって起こる生体の反応を全身的反応と局所的反応に分けて説明できる。<br>矯正力に対する歯, 歯周組織, 顎骨の反応を説明できる。  | 本吉 満  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 8  |  | 4.27 | 7 | 【遠隔】<br>成長発育概論<br>(教) pp.14-24          | 身体の成長発育について説明できる。   | 納村 泰弘 | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 9  |  | 5.11 | 6 | 【遠隔】<br>口腔機能の発達<br>(教) pp.55-65         | 口腔機能の発達を説明できる。  | 納村 泰弘 | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 10 |  | 5.11 | 7 | 【遠隔】<br>治療学概論                           | 矯正歯科治療の種類について説明できる。   | 納村 泰弘 | E-4-1) 不正咬合の治療 |

|    |  |      |   |  |  |               |                |
|----|--|------|---|--|--|---------------|----------------|
|    |  |      |   | 矯正力<br>(教) pp.191-199                                      | 矯正力の種類, 作用様式, 歯の移動様式について説明できる。                       |               |                |
| 11 |  | 5.18 | 6 | 【遠隔】<br>形態的検査<br>(教) pp.150-157                            | 顔面写真, 口腔内写真, 口腔模型などの資料についての分析法を説明できる。                | 中嶋 昭          | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 12 |  | 5.18 | 7 | 【遠隔】<br>機能検査<br>(教) pp.169-174                             | 下顎運動, 咀嚼運動, 嚥下運動, 発音などの機能検査法を説明できる。                  | 中嶋 昭          | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 13 |  | 5.21 | 1 | 【対面】<br>「平常試験」<br>(教) pp.1-199<br>(第1~12回までの内容)<br>およびその解説 | 歯科矯正学の基礎的知識の理解, 習熟習得状況を確認できる。                        | 納村 泰弘         | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 14 |  | 5.25 | 6 | 【遠隔】<br>頭部 X 線規格写真分析法(評価)<br>(教) pp.160-164                | 頭部 X 線規格写真の分析法を学び, 計測結果から不正咬合をどのように評価するかを説明できる       | 馬谷原 琴枝        | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 15 |  | 5.25 | 7 | 【遠隔】<br>頭部 X 線規格写真分析法(抜歯基準)<br>(教) pp.165-169              | 頭部 X 線規格写真の分析の結果から不正咬合を総合的に評価し, 抜歯基準についてその考え方を説明できる。 | 馬谷原 琴枝        | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 16 |  | 6.1  | 6 | 【遠隔】<br>治療方針の立案<br>(治療目標)<br>(教) pp.183-190                | 治療目標設定の重要性を説明できる。                                    | 馬谷原 琴枝        | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 17 |  | 6.1  | 7 | 【遠隔】<br>矯正装置の種類と特徴<br>(教) pp.215-217                       | 矯正装置の基本的条件と分類を説明できる。                                 | 稲葉 瑞樹<br>本吉 満 | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 18 |  | 6.8  | 6 | 【遠隔】<br>拡大装置<br>(教) pp.237-240                             | 拡大装置について, 急速拡大と緩徐拡大の違いを説明できる。                        | 本吉 満          | E-4-1) 不正咬合の治療 |

|    |  |      |   |   |   |        |                |
|----|--|------|---|---|---|--------|----------------|
| 19 |  | 6.8  | 7 | 【遠隔】<br>エッジワイズ装置<br>(教) pp.225-229              | エッジワイズ装置の特徴、構成などについて説明できる。  | 馬谷原 琴枝 | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 20 |  | 6.15 | 6 | 【遠隔】<br>ベッグ法<br>(教1) pp.236-237                 | ベッグ法の歴史的背景、特徴、治療法について説明できる。   | 本吉 満   | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 21 |  | 6.15 | 7 | 【遠隔】<br>床矯正装置<br>(教) pp.241-247                 | 床矯正装置、咬合斜面板、咬合挙上板の作用機序、適応症について説明できる。                                      | 本吉 満   | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 22 |  | 6.22 | 6 | 【遠隔】<br>矯正用材料の特性<br>(教) pp.208-214              | 各種線材料の機械的特性を説明できる。<br>接着剤の材料特性と接着機構を説明できる。                                | 納村 泰弘  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 23 |  | 6.22 | 7 | 【対面】<br>「平常試験」<br>(教) pp.1-247<br>(第1～22回までの内容) | 歯科矯正学の基礎的知識の理解、習熟習得状況を確認できる。  | 納村 泰弘  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 24 |  | 6.29 | 6 | 【遠隔】<br>「平常試験(第23回)」の解説                         | 今までの授業内容の習熟を図り、その解説から理解度のチェックを列挙できる。                                      | 納村 泰弘  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 25 |  | 6.29 | 7 | 【遠隔】<br>矯正用器械・器具<br>(教1) pp.391-400             | 器械・器具に関する視覚素材を閲覧し、その用途と使用方法を説明できる。  | 納村 泰弘  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 26 |  | 7.6  | 6 | 【遠隔】<br>歯列と咬合の成長<br>発育の演習と解説                    | 歯列と咬合について問題演習を行い、解説を受けることでCBTや国家試験に必要とされる重要事項について理解を深め、基礎的知識ならびに理論を列挙できる。 | 内田 靖紀  | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 27 |  | 7.6  | 7 | 【遠隔】<br>不正咬合の原因と                                | 不正咬合の原因と予防について問題演習を行い、解説を受けることで   | 内田 靖紀  | E-4-1) 不正咬合の治療 |

|    |  |      |   |   |  |      |                |
|----|--|------|---|---|--|------|----------------|
|    |  |      |   | 予防の演習と解説                                      | CBT や国家試験に必要とされる重要事項について理解を深め，基礎的知識ならびに理論を列挙できる。                                     |      |                |
| 28 |  | 7.13 | 6 | 【遠隔】<br>永久歯列期の治療<br>(教1) pp.285-326           | 永久歯列期の各種不正咬合の治療の考え方を説明できる。   | 本吉 満 | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 29 |  | 7.13 | 7 | 【遠隔】<br>保定<br>(教1) pp.327-335                 | 矯正治療における保定の重要性を説明できる。保定の概念，種類を説明できる。<br>保定装置の種類と機能を説明できる。<br>不正咬合の再発，その防止策について説明できる。 | 本吉 満 | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 30 |  | 7.20 | 6 | 【遠隔】<br>成長発育期の口腔<br>顎顔面の診察<br>(教1) pp.263-326 | 視覚素材を活用し，成長期の患者の口唇・口腔・顎顔面の状態を把握するために，非侵襲的な診察と検査を行うための基本的知識，技能および態度を説明できる。            | 中嶋 昭 | E-4-1) 不正咬合の治療 |
| 31 |  | 7.20 | 7 | 【遠隔】<br>初診時および診断<br>結果の説明<br>(教1) pp.263-326  | 視覚素材を活用し，初診時のコミュニケーション方法や診断結果を分かりやすく説明するために必要な基本的知識を説明できる。                           | 中嶋 昭 | E-4-1) 不正咬合の治療 |

